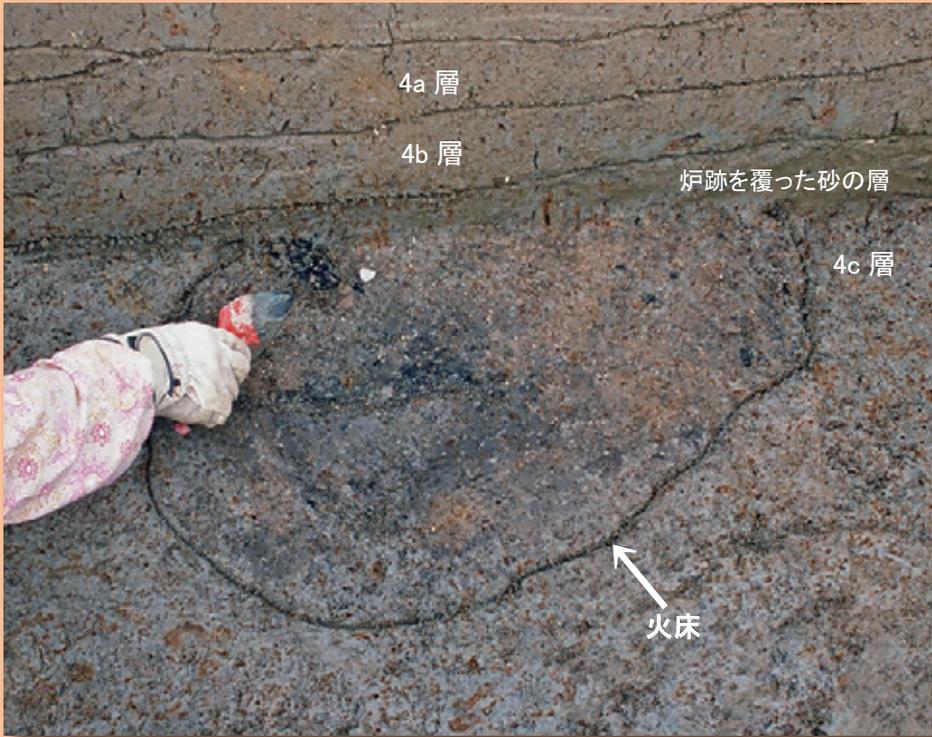


# 発見された遺構

確認調査では、3つの地層（4a・4b・4c層）から、炉跡26カ所、焼土粒集中8カ所、炭化物集中4カ所が発見されました。これらの遺構は、当時の河川に沿った自然堤防の上に、集中して分布していることがわかりました。炉跡の周囲からは、その場所ですべれたような状態で出土した土器（一括土器）、石の鏃やナイフなどの様々な石器、石器をつくる際に出る石の欠片（剥片・砕片）などが見つっています。今後、出土した遺物の分布状況や接合状況を詳細に検討していくことで、炉を拠点とした当時の活動の様子を明らかにしていきたいと考えています。

## 炉跡（4HE21）の調査（4c層）



写真中央に赤く見える楕円形の範囲が、炉跡の火床です。火を焚いたことによって、土が熱を受けて焼け、赤く変色しています。火床の上に黒く見える塊や粒は、燃料に使った薪の燃えカスと考えられます。また、写真奥の調査区の壁を見ると、炉跡の上に、河川の氾濫によって運ばれてきた砂の層が堆積していることがわかります。この砂の層に覆われてパッキされたことで、この炉跡は当時の状態のまま保存されていました。

## 炉跡（4HE02）の調査（4b層）

